

# ぬかた便り



岡崎市立  
額田図書館便り  
No. 30 春号

(2014. 3 発行)



寒い日の続く3月、皆様はどのように過ごしておいででしょうか。春近しいといえども風はまだ冷たく、晴れた日の日差しの暖かさがありがたく感じます。

ところで皆さんは、額田出身で、東京で出版社を立ち上げられた方がいらっしゃるのをご存知でしょうか。

2013年10月に3冊目の本を出版された、

**景文館書店の荻野直人さん**です。今回、額田に帰省された際、荻野さんにお話を伺う機会をいただきましたので、インタビュー形式にてご紹介いたします。

**Q. 荻野さんはお一人で出版社を立ち上げたということですが、苦勞など多かつたのではないのでしょうか。**

荻野 実是一人での出版社の立ち上げはそれほど大変なことではありませんでした。大変なことと言えば、本の流通に関することでしょうか。流通に関しては全くの素人なので、取り次ぎの方に頼んでいます。大手の間屋に頼むと配送までに手間も時間もかかるため、神田にある中規模の間屋に頼んで置いてもらったりして、後は自分の部屋で保管しています。

**荻野 直人さん**

1977年生まれ（現在36歳）  
豊富小学校、額田中学校卒業  
大学卒業後、美術関係の仕事の傍、大学院修士課程を修了。  
2012年に東京で出版社「景文館書店」を立ち上げる。



**Q. 出版社を立ち上げてから初めて出版された本は、『吉田知子選集Ⅰ 脳天壊了』（913.6ヨシ 本館所蔵）ですが、どうしてこの作品を選んだのでしょうか。**



荻野 もともと谷崎潤一郎や井伏鱒二などの少し昔の作家が好きだったので、高校時代に図書館で借りた『犬の幸福』（中央公論社、913.6ヨ 本館所蔵）を読んで以来、吉田知子さんの作品を好きになりました。その後『脳天壊了』を読んで感が、出版社を立ち上げるきっかけになったと言えるかもしれません。

**Q. 出版のお話を持って行った時、作者の方から本の出版を反対されたと同っております。**

荻野 どれくらい本気で反対されたかはわかりません。吉田知子さんから「話はうれしいが、自分の作品は売れない」と言われ、「あなたは財閥の御曹司か何かか？」と尋ねられました。吉田さんの本は他の出版社から出版されても増刷されることがほとんどなく、昔から古本屋を回らないと手に入りませんでした。本として出版する以上、売り上げは印税として作者の方へいくらかお渡しするのですが、吉田さんからは「印税はいらない」と言われているため、印税なしで出版させていた